

ふくしま 再生 短信

2019 / 12 / 15 - 16 農泊事業視察団同行記

※ 遠野を歩く ※



菊池さん（左端）の講話

2019年12月15日、佐須行政区地域活性化協議会主催による遠野視察団に同行。一行は東北新幹線「新花巻」から車に分乗して遠野へ。目指す先は「認定NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク」（会長・菊池新一さん）。到着後まずは菊池さんの講話、「日本の場合、農村を大事にする文化が未成熟、「ありのままがいい・旅人も」を目指し、交流を通して都会の人たちともその想いを共有し、一緒に活動したい」と菊池さんは言う。講話のあとの第一声は「街と一緒に歩きましょう」。



まつだ松林堂の女将さん
お店をあとにした。お見送りが嬉しい。

遠野は実は大手メーカーのホップ一大供給地、ビールといえばジンギスカン鍋も名物になっているのが面

白い。地域通貨に名がつく「カップ」は座敷わらし・姥捨・などと並んで遠野物語に出てくるが、次代に生命を繋ぐ知恵とのこと。男のロマンが女の不満であってはならない、菊池新一さんの持論。この日の農家民宿く素づくり亭の主人は菊池貴久子さん、好きな言葉は「金もうけ」でなく「人もうけ」。出会いこそ宝石だ。



泊まり先の顔が見えるく素づくり亭>主人は菊池貴久子さん（右端）

16日、今日も菊池新一さんと。遠野は「旅産直」を掲げるだけに役者には事欠かない。「夢産直かみごう」に出店する「季節のジェラート工房・遠野酪農舎」では代表の入倉康彦さん直々出迎え。たかむろ水光園は落差百米の水力発電利用、山と農地に囲まれたユニークなホテル、遠野名物「ジンギスカン」「どぶろくソフトクリーム」も堪能できる。このあとデンデラ野（下の記事参照）など柳田国男『遠野物語』（1910）発祥の地・土淵山口集落を案内していただく。帰路は記者のひとり旅・・・。（文責&撮影・若林一平）

ジェラート店前・入倉さん



たかむろ水光園



土淵山口集落の水車小屋
（右・菊池新一さん）

「どぶろくソフトクリーム」も堪能できる。このあとデンデラ野（下の記事参照）など柳田国男『遠野物語』（1910）発祥の地・土淵山口集落を案内していただく。帰路は記者のひとり旅・・・。（文責&撮影・若林一平）

（1910）発祥の地・土淵山口集落を案内していただく。帰路は記者のひとり旅・・・。（文責&撮影・若林一平）

デンデラ野

デンデラ野は山口集落にあって、『遠野物語』【写真4】では「蓮台野（れんだいの）」であり「デンデラノ」と訛ったと伝えられているが、現地には六十歳を超えた老人たちが起居を共にする「あがりの家」が再現されている【写真1】。老人たちは昼間は里に降りて農作業手伝い、何がしかの糧食を得る。土地では朝に野

らに出ることをハカダチといい、夕方野から帰ることをハカアガリという（『遠野物語』）。現地に来て気づいた。「姨捨」のレリーフがある高室橋を渡りデンデラの坂【写真2】を上がると直ぐにあがりの家がある二百米足らずの距離は人里離れた「姨捨」のイメージとは全く違うのだ。遠野の冬の最低気

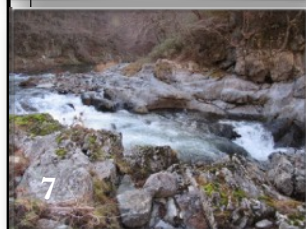
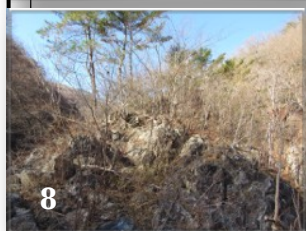
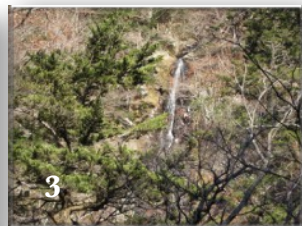
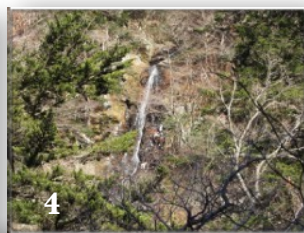
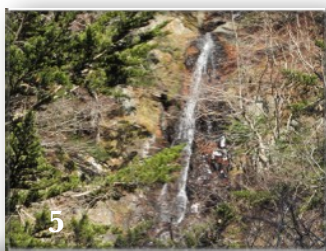


温は北海道・札幌より低い。「姨捨＝口減らし」は過酷だけれど「命の軟着陸」だったのではと遠野発の夜汽車でひとり考えた。【写真3】

ふくしま

再生 短信

新田川溪谷 < 秘境 > 探訪



❖ 糸滝と弁財天 ❖

2017年12月3日午前9時、ふくしま再生の会有志一行は新田川溪谷に向かうべく佐須を出発。目的地である糸滝は「行っただけで何もなかった」と言われるくらいに到達＝発見の難しい<秘境>である。よってこの日はナビゲーターに佐藤俊雄さん・伊賀和子さんのお二人を迎えて万全を期していた。新田川（にいだがわ）は飯館村西部の阿武隈高地に源を発し、野手上山の北側の深い溪谷を通り東へ進み南相馬から太平洋に注ぐ。

一行は野手上山の南側を流れる比曾川溪谷の東北電力巡視路（写真1）を經由して新田川溪谷に到った（写真2、比曾川は新田川に合流）。30分ほど東に歩いたら「着きました」と佐藤さん。何も見えない。しかし指差す方角をよく見ると確かに「糸」が1本（写真3）。望遠で拡大すると幻の滝は見事出現した（写真4・5・6）。糸滝から小一時間東へ。弁天様にお参りできまると伊賀さん。激流（写真7）の先の丘の上（写真8）にお堂があるという。またもや「何も見えない」。しかしよく目を凝らすとお堂のようなお姿（写真9、望遠で拡大）。

この日の善男善女は弁財天ご開帳の日の近いことを夢見て、御利益を心から祈願し遅い昼食の後足取りも軽く帰路に着いた。（文責&撮影・若林一平）

ナビゲーター

飯館村文化財愛好会・佐藤俊雄さん（左から二人目）、福島県植物研究会・伊賀和子さん（右端）。宗夫さん・千恵子さん夫妻と二宮さんと、弁財天対岸で。



ふくしま

再生 短信

葡萄園の春 2020

2020年3月 ワイン用葡萄苗木定植作業同行記



【背景写真】滑・宗夫さん牧場における作業風景。【各写真】
 1.葡萄棚支柱の埋め込み作業中の菅野泰弘さん。2.完成した支柱群。
 3.苗木が育った。4.定植前の宗夫牧場。5.定植に必須の水遣り。
 6.シャベルチームが奮闘中。7.定植完了一同ニコリ。

2020年3月21～22日、26～27日、滑の菅野宗夫さん牧場と佐須の菅野芳子さんの畑で小原壮二チームリーダーのもとで行われたワイン用葡萄の定植作業に、記者は同行。昨年始まった定植作業は初年度に100本2年目の本年は202本、計302本の苗木の定植を完遂。滑の牧場は石が多くツルハシまで登場。定植を終えたのは赤ワイン11品種・白ワイン6品種。。宗夫さん一家は長男泰弘さんが駆けつけ、田尾

さん矢野さん一家にゲストの家族も応援に、再生の会有志を加えまことに多彩なチーム構成。27日夕刻三年目の実りを夢見て各自家路についた。(写真1～4は小原壮二さん、他の撮影と文責・若林一平)



2019年定植開始

定植開始は昨年から。上の写真は2019年10月、成長した苗木の姿。下は宗夫牧場の元の姿

(2018年)。詳細は小原壮二報告『2020春定植の記録ver.2』



ふくしま 再生 短信

水力エネ先進地・桐生訪問

※ 今に生きる＜水車米＞ ※



2019年4月18日、菅野宗夫さん・千恵子さん夫妻、八下田好一さんと記者、計4名の有志は水力エネルギーの先進地・桐生を訪問した。午前10時最初の訪問地「和平茶屋水力発電所」（写真1）に到着。案内の労をとっていただいたのは桐生市黒保根支所産業振興課・関口武久さん。桐生は京都西陣と並ぶ高級織物の産地であり、江戸期から水車を活用した技術開発でも国内産業を牽引してきた。桐生市は豊富な歴史遺産を背景として水力発電の普及と実践に注力している。

「和平茶屋水力発電所」は発電開始から15年、「和平茶屋森林公園」に隣接しており、公園内のバンガローや管理棟の消費電力を全て賄った上で余剰電力



水車と精米

米作が始まった弥生時代にも上流階級は石臼を使って精米した「白米」を食

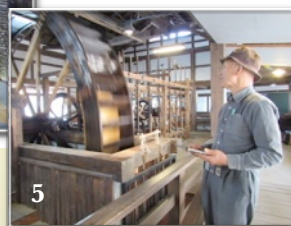
は東京電力に売電、最大出力は22KW。「取水口まで登りますか」との関口さんの呼びかけに皆「はい喜んで」と良い返事。高低差70メートルを歩き取水口のあ

る治山ダムに到着後関口さんから説明を伺う（写真2）。そもそもの事業主体は平成合併前の黒保根村、草の根の心意気に痛く感動しました。

昼食は黒保根の美味しいうどんをいただいて午後の目的地大間々町の小平の里・親水公園にある「野口水車保存館」（写真3）へ。「野口水車」は明治の末期に材木商・野口金太郎が建造しその後1955年頃まで半世紀近く製粉・精米の施設として役立ってきた。1990年水車施設一式が野口家から寄贈さ



れたのを契機として精巧なからくりが復元（写真4）、精米が行われ「野口水車米」として販売されている。精米装置に見入る宗夫さんの姿（写真5）が記者の脳裏に今も焼き付いています。（文責&撮影・若林一平）



していた。しかし白米人口が画期的に増えたのは江戸の元禄期、生活水準の向上である。無論上級武士をはじめ富

裕層限定だが、広尾の辺りにも精米用の水車が立ち並んだ。

ふくしま 再生 短信

東大大学院農学生命科学研究科・溝口勝研究室遠隔観測システム快挙

✕ 未来を捉えました ✕



【上の写真】ミゾカメが捉えた佐須ぶどう園の実り。

2020年8月30日午後、東大大学院農学生命科学研究科・溝口勝研究室遠隔観測システム（愛称：ミゾカメ）が、なんと歳月を越えてたわわに実る佐須のワイン用ぶどうの姿を捉えた。この歴史的写真のコードネームは＜Sasu-wine1＞とある。なんともニクい仕掛け

と言う他はない。葡萄園チームリーダーの小原壮二さんによれば「溝口さん、ありがとうございます。収穫は3年目（来年）からと言われているが、樹勢の強い苗木はそれを落着かせるために

と、果実を取らずにつけたままにしています。ついこの前までは黄緑色でしたが、本来の赤ブドウの色に変化してきていますね。品種は「富士の夢」です。気象のデータも、特に降水量は1日に数回見る時もあり、現地の状況を知るのに役立っています。ありがとうございます」とのこと。滑ともども佐須葡萄園は順調に成育中【写真左：全景・本年7月19日小原壮二さん、写真右：除草作業・7月11日佐野隆章さん撮影】。

今回の快挙は根っからの飲兵衛である溝口さんのふか〜い愛の賜物ではないだろうか。誠に目出度き慶事というほかはない。

（文責・若林一平）



ふくしま

再生 短信

「交流の家」 誕生

10/4 お披露目 11/22 火入れ式



8 北側全景



7 南面テラス



6 和室



5 教室入口



2 佐須小・秘蔵のお宝



4 囲炉裏端



3 黒板

1 交流の家を囲む縁側は東から西へ伸び風と土の家へ・左手前は別棟のシャワー&トイレ

2020年10月12日午前9時、お披露目（10月4日）を終えた「交流の家」（仮称）を訪問。折しも交流の家の囲炉裏端で開催された打合せ（メンバー：合同会社虎捕の郷代表社員/佐須老人クラブ会長・佐藤公一さん、佐須老人クラブ前会長・菅野永徳さん、再生の会理事・矢野伊津子さん、同理事/健康・医療ケアチームリーダー・中町英佐子さん）に陪席。中町さん司会で進行、11月中旬テラスの建具も入り囲炉裏に火が入るようになり「火入れ式」を神事として行うことに話題は収束。日取りは旧暦の佳き日・11月22日、健康・医療ケアチームもこの日の再開が自然と結論。

交流の家の建築主体はふくしま再生の会、デザイン：サイクルアーキテクト山岸綾・

はりゅうウッドスタジオ協力、施工：佐々木木工所・芳賀沼製作。運営主体は合同会社虎捕の郷。

建築デザイナー山岸綾さんは新潟の「大地の芸術祭」総合アートディレクター・北川フラムさんの紹介、同芸術祭では施設設計も手掛けた方。フラムさんは解体（本年1月）前の佐須小を視察し保存建材につき助言。故芳賀沼整さんが主導した仮設住宅のログ資材は風と土の家に続き活用。

旧佐須小で積みあげた健康・医療ケアの交流が＜新佐須小＞でついに再開する。

（文責&撮影・若林一平）

健康・医療ケアチーム
火入れ式の日に活動再開

招待を受けチームは活動再開。
相澤医師の健康講話、個別相談、個別ケア、などを予定。